

パーキンソン病の社会的認識をたかめよう！

<p>全国パーキンソン病 友の会々報</p> <p>支 部</p> <p>だ よ り</p>	<p>全国パーキンソン病友の会茨城県支部 〒315・茨城県石岡市若松1-7-5 ☎02992-②-5580</p> <p>(郵便部経理) 宇都宮0-38042 (加入者名)</p> <p>全国パーキンソン病友の会茨城県支部</p>	<p>NO. 9</p> <p>発行</p> <p>1988. 11. 26</p>
--	---	--

挨拶文

支部長 清水 昇勝

本日は第三回患者・家族交流会にお身体の大変のところここ奥久慈大子温泉福寿荘に皆さんと一緒に集まる事が出来ました。

この交流会のため計画・企画を担当されました、植本さんご夫妻と久保園さんに感謝致します。

先週の日曜日、大宮町の中村一則の奥さんがお割りになった誌が此の度富山音楽事務所並びにポエム音楽企画の協力により、キングレコードから演歌《風雪夫婦花》で発表されました。この歌詞は皆様御存じのことと思いますが、すでに私たちの友の会「支部だより」又全国会報で紹介され県内はもとより、全国の患者・家族の感動を浴びたものです。患者を代表して作詞者であります中村きみ子さんにお礼申し上げます。今日はこの歌も発声訓練の中に入っております。又色々イベントが用意されて居りますので、ご期待下さい。

皆様今日と明日の一泊二日の交流会を有意義にお過ごし下さい。

最後に私たち患者団体に対し暖かく受入れして下さいました福寿荘さんに感謝して挨拶といたします。

体 験 談

勝田市 佃 国夫

昭和65年60才で発病してから昭和63年68才の現在までの病歴経過についてお話しします。

昭和55年5月左手が一寸の時間振えるのが前兆だったようです。その年の12月の末頃から左手薬指と小指がかすかに断続的に振え始めました、これが発病でした。当初はさほどの振えでもないので近くの病院で診て貰って居りましたが病名がはっきりせず、振えも止まる気配がないので、昭和56年4月日立市の日製総合病院で診察を受けたところ、パーキンソン病と判定されその場で注射をして、Lドーパの投薬を受けました。

家に帰って家庭医学百科で症状・原因・治療・生活上の注意等についての知識を身につけ、今後の療養のあり方に備えました。

病院は勤めの関係上会社に近い病院にすることにし、日立市の日製総合病院で受けた薬と注射のカルテの写しを勝田市津田の玉尾病院にて診て頂き、その後約6年間その病院で治療を受けました。

病気年々進行し、Lドーパの服用量も増えてきました。昭和61年10月頃手足の振えがひどく激しくなり会社での仕事が出来なくなりました。この頃に、脳定位手術に関する楢林教授の記事（パー病友の会東京支部だよりNO8）を見て脳定位手術に心が動き更に茨城県支部長の清水さんが手術後の経過よく仕事に精動されている姿を見、手術する事を心に決めました。

その後石岡市に清水支部長宅を訪ね脳定位手術について詳細なお話しを聞き手術を受ける事にし、昭和62年1月に脳定位手術を受けましたが私の場合は100%成功した左手足の振えは完全に取れました。勿論固縮も取れましたがその他の症状は皆さんと同じく進行しております。

闘病日誌より

北茨城市 柏倉 重助 (家族)

昭和35年頃何となく身体の不調を訴え、日を追ってそれがおおくなり、近所の病院で診察を受けましたが病名がわからず、毎日の注射・投薬に涙を流しました。43年頃に子供達の意見をいれて、東大病院の診察を受け、初めて「パーキンソン病」とわかりました。当時は難病中の難病であることも判らずカルテを水戸日赤に廻して頂き、以来何の手当もなく勿論注射等は一切なく、ただひたすらにドパールと云う内服薬を呑み続けました。

最初の4、5年位はどうか自分でトイレに行く位の病気の進行は止まっていた。しかしその薬の効果も病原の前には徐々にきかなくなり、55年から60年位には、全く薬の効力、なくなり量を増せば増やす程「不随運動」が激しくなり見ている者が可哀想なくらいでした。

しかしこれ以上病状を進ませない様と食物に注意し、又励ましては運動させての毎日が病気との戦いでした。本人は勿論小生共々何とか自分の事位はと願う心で一杯でした。

61年には水戸日赤迄行くのも困難となり、62年6月北茨城市立病院に転院し山田先生の診断を受け19年間呑み続けたドパールと新薬の体内交換とゆう事になり以来3ヶ月間飲まず、食わずで植物人間的な続き、新しい薬の投薬が始まり6ヶ月後に元以上の治療はないと言う山田先生の宣言を受け結果は思いの外の治療受け良結果で退院しました。その時の体調は本当にこのまま良い方向に進むのかと思う程好調でした。

自分で食ベトイレも一人で行き、お風呂も一人で入る程になりました。夢の様でしたが、それも3ヶ月位の間でした。難病に取りつかれた体は特に家内に取り付いた病菌は何の薬もきかなくなったのでしょう。徐々に入院前の体調になってきた様です。

「治そう」「治ろう」と云う気も張も力尽きてまいりました。現在（63年10月）は薬を増やすと脳が犯される様な状態となり、又医師も余り増量を認めてくれません。

発病以来20数年この病氣と戦って来ました。可哀想な妻、そして私たちが病氣そのものに痛みがないと云う事に一つの幸わせを見つけ今後共いたわり、食べさせ、テレビ等で楽しみを与え病氣は病氣なりに天命を全うさせたいと考えています。

どうか皆さん簡単な小生の手記ですが小生も20数年頑張りました。

個々に体質がありますから、参考とせずこの難病に打ち勝つ様患者本人も又廻りの者にも頑張ってください。

末筆ですが、会の皆さんと特に会報等に付いては種々と参考となり、こうした難病対策にお骨折り下さる会の役員の皆様には深く感謝しています。

皆さん今後共病氣に負けない様頑張らしましょう。

最後ですが遠い所、お見舞いに来て下さった清水支部長さんに深くお礼申し上げます。

茨城県北茨城市関南町神岡下382の2

柏倉重助 69才

昌 66才（患者）



体 験 談

水戸市 石塚 進

私は60才で電気工事会社を退職し、現在電気保安管理業務をやっておりません。今年満74才になります。

20年前から私は、毎朝仏前で左手に経典を持って、約30分お経をあげるのを日課として居りますが、昨年9月頃から経典を持った左手が振えるようになりました。心臓が悪く病院に通っておりましたので、先生にお伺いしました。所未梢神経炎でなかなか治りにくいですよとのことでした。

今年始め頃から足が重く、前かがみになってズリ足で歩く様になり、毎朝やっていた、ラジオ体操も飛ぶ運動が出来なくなりました。又仕事でネジを廻すことも出来ない状態でした。3月中頃でした車から降りて歩き出したのですが同じ様に自分の意志で止まることが出来ませんでした。この頃から、これはおかしいなと思う様になり、大病院で診察を受けました。脳外科でC.Tの検査を受け脳には異常がないことが解りました。

私の娘が長野県飯田市の病院で看護婦長をして居りますので電話で病状を話したところ「パーキンソン病」ではないかと思うからすぐ来て診察して貰う様とのことで、4月始め参りました。神経内科の専門の先生にみて貰いましたところ、やはりパーキンソン病とのことでした。詳しい説明を受け薬を頂きました。1週間も服用しましたところ、左手の振えが止まり足も軽くなって、スタスタ歩るけるようになりました。入院を覚悟で行ったのですが、薬を4週間分頂いて2週間で水戸に帰ってきました。

現在は、心臓と一緒に水戸の城南病院で薬を頂いて居ります。

水戸に帰ってから知人より「パーキンソン病友の会」のあることを知り石岡市にいらっしやる、清水昇勝支部長さんと連絡がとれ、5月の友の会役員会に家内と2人で出席させて頂きました。

同病の方々の暖かい、励ましを受け「難病」と悲観していた私もお元気な皆様の姿に接し、勇気百倍致しました。

4月、5月、6月仕事を休みましたが、7月に車の運転を手伝って下さる方がみつきり、今の所、朝1回「Lドーバ」を服用しておりますが、手の振えもなく、ほとんど病気の症状はありません。

現在続けてやっておりますことは次ぎのことです。

- ①薬は忘れず服用している。
- ②毎朝お経を20分～30分あげている。
(お経をあげることで顔の筋肉と長い呼吸が大変にいいとように思います)
- ③朝6時に起きて30分程近所を両手を大きく振って歩いてきます。
- ④毎週1回マッサージに通っています。

お陰様で今のところ病気の進行はみられません、私の場合は病気を早期に発見出来て薬の効果が早かったのではないかと感じて感謝しております。

先日、家内の友人に同じ症状の方がいました、熱が出るわけではなく、痛むこともないので病院に行っていない様ですが、転んで骨折などした場合は、寝たきりになることが多いのですから、1日も早く診察を受け薬を服用されるようお進めしました。



奥久慈大子温泉交流会に参加して。

◆初めての参加でしたが、大変に楽しく過ごさせて顶きました。

闘病生活は本人にとっても家族にとっても苦勞の多いことですが、皆様方の明るい姿を見て私共が如何に今後を過ごして行くべきか参考になりました。

・経験談を聞くことが一番の助けになりますので幹事の皆さんが気配りされておられましたとおり、参加メンバーが全員話しが出来るようなチャンスを今後とも得られますようお願いします。

これを機に皆様方との連帯意識を高め行動を共にして参りたいと思っておりますので宜しくお願いします。最後に皆様方のご多幸を祈ります。

◆大変楽しい旅行でした。綺麗なホテルでゆとりある一泊でした。

◆大変楽しく過ごさせて頂きありがとうございました。

◆前回、前々回に比べ一段に有意義に出来た、来年も参加したい気持ちになりました。これも係りの方のご努力もさることながら、場所・環境など総合し、また会員の成長にもあると思います。

◆役員の皆様のお骨折りは本当に感謝します。いやな病氣も朗らかにして下さって本当に嬉しくなります、長く続けて下さい。

◆天候に恵まれ最高の交流会でした。皆さんが昨年が増えてお元気の様子により喜ばしい限りです。久保園、植本夫妻のお骨折りで立派な福寿荘の設営頂き、食事も奥久慈ならではの料理で只々感謝と云う二文字であります。来年もこのような形で交流会が出来るよう希望致します。ありがとうございました。

◆第三回友の会の旅行が10月1/2日役員さんのお骨折りにより行われた。同じ不治の病を持つ者との語り合い、慰め合い、皆の意見の交換、また薬の呑みかたについての話し合い、一泊二日の短い時間でしたが、楽しく過ごさせて頂きました。

私は発病以来四年になりますが医者信用して病氣と闘って居ります。友の会の支部長ご夫妻の献身的のご指導には頭の下がる思いです。

来年も旅行に出席出来るよう頑張ります。

『みんなでやろう朝の運動両手を振って』

◆楽しい旅行が出来ました。役員さんのご苦勞を感謝申し上げます。

《前頁に続く》

◆支部長さんを初め役員の皆様的一方ならぬご苦勞に報いかのような、爽やかな秋晴れなり、また本日も皆様にお目にかかれたこと、それぞれに努力して居られること、いつもながら勇気づけられます。

楽しい旅行が出来ましたことを感謝します。次回をたのしみしております。

◆素晴らしい旅行だったの一言につきます。

交 流 会 に 参 加 し て

石岡市 清水 晴美

今年雨の日が多い毎日で待ちに待った交流会はどうなるかと心配して居りましたが、皆様（40人）の日頃の行ないが良かったので素晴らしい秋空が顔を出し、水郡線の土手に昨年と同じ真赤な彼岸花やコスモスの花が咲き、赤く色づいたりんご畑、観光地に来たような久慈川や山の緑に浮き浮きと鼻唄気分で現地に向かいました。

懐かしいお元気な皆様にお会い出来て本当にうれしくなり、この交流会が有意義な2日間であるように役員全員で取り組みました。

一人でも多くの皆様のお話しを伺いたいと思って居りましたので、全体を通じて時間的にはゆっくり出来てよかったですと思います。

貴重な体験談や夜の宴会の中村きみ子さんのキングレコード企画の《風雪夫婦花》の発表ご披露に続き、皆様十八番のカラオケや民謡等楽しい宴会でした人の歌を聞くだけでなく全員が舞台上がって、積極的参加出来るようなゲームがありましたらお知らせ下さい期待して居ります。

翌日のりんご狩り、お天気も晴てみんな良かったと思います。又来年も元気で全員集合し、楽しい交流会を重ねていきたいと思ひます。

これからは寒さに向ひます、家の内にこもらないで毎日のお仕事やリハビリに頑張りましょう。

事務局だより

第四回定期支部総会の予告

- ◆日時……………昭和64年4月9日(日)午前10時～午後4時
◆場所……………水戸市千波町後川 県立県民福祉センター

新入会員紹介

- ◆柳田みよ様 ☎319-21那珂郡那珂町
◆佐藤幸子様 ☎312-42つくば市

訃報

- ◆故坂井園子様 (71才)土浦市 昭和63年7月30日死去されました。
心からご冥福をお祈りいたします。

日本患者・家族団体協議会(J.P.C.)

『全国交流集会'88』に次難連の代表として参加する。

昭和63年11月19・20日の2日間の日程で滋賀県大津市のびわ湖ツーリストホテルで行われた。

全国から約170名が参加し、各地から医療にかかわる諸問題を持ち寄り、全体の問題として交流した。

木下安子・東京都日野市地域ケア研究所長が「日本における在宅ケアの実情と今後の課題」と題して記念講演がありました。



田辺三三
米米
全国の難病患者交流
難病患者と家族の全国組織、
日本患者・家族団体協議会(J.P.C.)
CII長宏代表幹事、土万人
など主催の「全国交流集会'88」
が十九日から二日間の日程で、
大津市におのびのびのびわ湖
ツーリストホテルで始まった。

今回で三回目の全国集会で、
全国から約百七十人が参加。テ
ーマを「日本の医療・福祉と患
者運動を考える」とし、参加者
の関心が特に高い在宅ケア問題
が主課題に取り上げられた。十
九日は、木下安子・東京都日野
市地域ケア研究所長が「日本に
おける在宅ケアの実情と今後の
課題」と題して記念講演。「家
族、行政、地域社会が一体とな
った介護体制を整えることが大
切」と訴えた。

毎日1988, 11, 20朝刊



難病患者などの医療と生活の保障を 要望する請願運動にご協力下さい。

病人は治療に専念していなければならないのですが、医療や福祉の制度が次々に後退させられているため、やむにやまれず運動に立ちあがりました。

「人間の尊厳そして生命の尊厳が全てにわたり、何よりも大切にされる社会」を願い、「現代における人間性復権の闘い」ゆたかな医療とあたたかな福祉が受けられるよう。又、私たちもこの機会に国会に参加する意味で、国会請願署名・募金を訴え皆さんに署名とカンパを呼びかけて下さい。

(〆切は12月25日まで。全国パーキンソン病友の会茨城県支部宛)
郵便振替の場合は㊦字都宮0-38042又は現金封筒でお願いします

